

現代日本語における「わりに（は）」の用法について

About the usage of 'warini (ha)' in modern Japanese

楊文華
YANG WENHUA

岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要
第60号 2025年12月 括刷
Journal of Humanities and Social Sciences
Okayama University Vol.60 2025

現代日本語における「わりに（は）」の用法について

楊文華

はじめに

「わりに（は）」は前件の状態からある予想が導かれ、後件がその予想内容を打ち消す表現である。例えば、グループ・ジャマシイ（2023）では、次のような例文を挙げ、「「あるものの状態から常識的に予想される基準と比較すれば」という意味を表す。プラス評価でもマイナス評価でも、基準どおりではないときに使う。」と説明している。

- (1) あのレストランは値段のわりに¹おいしい料理を出す。
- (2) このいすは高価なわりには、座りにくくい。
- (3) あの人は細いわりに力がある。
- (4) ひとの作った料理に文句ばっかり言ってるわりにはよく食べるじゃないか。
- (5) あまり勉強しなかったわりにはこの前のテストの成績はまあまあだった。
- (6) 山田さん、よく勉強したわりにはあまりいい成績とは言えないねえ。

（グループ・ジャマシイ：558）

例えば、(2)は「椅子が高価である」という条件から「質がいい」ことや「座り心地がいい」ことなどが予想される。このように、前件の条件から普通に考えればXであるはずだが、現実ではXではないことを「わりに（は）」は表す。一方、藤田（2015）で指摘されているように、「わりに（は）」の用法は上述の捉え方では説明できないものもある。

- (7) 鼻が大きいわりには、目は随分と細い。 (藤田2015：例（28）)

確かに、用例を見ると、このようなものが多く見られる。本稿ではこうした用法も含めて「わりに（は）」の用法の全体について考察することを目的とする。

1. 先行研究

1. 1. 森田（1989）

森田（1989）では、

- ・勉強しなかったわりには成績がよかつた
- ・ふとっているわりには動きが敏捷だ
- ・努力家のわりに成績は良くない

¹ 下線は筆者による。

といった例文を提示し、「結果が、条件から予想される状態に比べて差がある場合」、「その条件や状況にしては……だ」の意で、結果が予想の水準・程度を上回るか下回る場合」に使われ、「……にしては」の逆接意識である」と述べられている。

1. 2. 藤田（2015）

藤田（2015）では

- (3) この菓子は、大きいわりに、火もしっかり通っている。 (藤田2015：例（1）)

という例が「反予想」を表す典型的な例として挙げられている。こうした「わりに」の意味は「Aであるのに、そのAの程度から予想されるあり様に反する程度のBである」と説明されている。一方、藤田（2015）は（4）のような「予想に反する」という意味に読み取れない「わりに（は）」も存在すると指摘している。

- (4) 鼻が大きいわりには、目は随分と細い。 (藤田2015：例（28）]

それは、「鼻が大きい」ことが「目は細くない」という予想を導き、それに反して「などと解釈するのは、いかにも無理がある」（藤田2015：55）からである。このような表現のしかたは「ある事物・人等の対照される二つのあり様について、はっきり目につくようなバランスの悪さが見てとれるということを言う」（藤田2015：55–56）ものであるとする。

1. 3. 森山（2018）

森山（2018）は、「歳をとっている割に、物忘れはひどくない」という例文を取り上げ、この文の背後には「歳をとれば、そのぶん物忘れはひどくなる」という前提が存在すると指摘している。そして、このような構造を「比例的などらえ方」と捉え、「割に」を比例関係に基づく逆接を表す形式として位置づけている。

その一方、森山（2018）では「あのシェフは、イタリアで修行した 割には・にしては、味付けが下手だ。」という文からは、「比例的関係というような連続性が見えにくい」と指摘されている。

1. 4. 田中（2010）・同（2021）

田中（2010）では「わりに（は）」が「逆接・対比表現の一つ」として扱われており、以下の例文が提示されている。

- (203) a. 斎藤さんは体が細いわりに、力がありますね。
b. あのレストランは値段のわりには、おいしくてボリュームも多い。
c. よく勉強したわりには、あまりいい成績を取れなかった。
d. 彼は日頃勉強しないわりには、試験ではいつも好成績をとる。
e. 彼女はたくさん食べる割には、なかなか太らない体質だ。
f. 田代さんは慎重な性格のわりには、ケアレスミスが多すぎる。

(田中2010：218)

これらの例はいずれも前件から何らかの予想が導かれるが、それが成立しないことを表すもので

あると考えられる。他方、田中（2021）では、「わりに（は）」のほか、「- {に／と} 比して／比べて」、「-と比較して」、「-とは裏腹に」、「-とは反対に」などを「比較・対比表現」の項目で扱っている。「わりに（は）」の例としては、

(65) 背の低いわりには、ひどく老けた顔をしている、寸づまりのその顔は異様にみえた。

(越前竹人形)

(66) その意気込みのわりには、男の動作は緩慢だった。砂に力を吸われてしまうのだ。

(砂の女)

(田中2021：272)

が挙げられている。例(65)を見れば、確かに、例文(203)とは異なり、「わりに（は）」の前件の状態から何かが予想されるわけではないと考えられる。ただ、それが「比較・対比表現」として読み取れる仕組みについては、さらなる説明が必要である。

以上の先行研究の記述をまとめると、「わりに（は）」は主に現実と予想内容の齟齬という逆接的意味²を担うとされることが多い（森田（1989）、藤田（2015）、森山（2018）、田中（2010））。藤田（2015）は「反予想」を「Aの程度から予想されるあり様に反するB」と定義し、同時に「予想に反するという意味に読み取れない」ものも存在すると指摘している。森山（2018）では、「比例関係に基づく逆接」とされる例文が「反予想」として解釈される一方で³、「比例的関係というような連続性が見えにくいものがある」とも指摘されており、そうした例の位置づけが課題となる。田中（2010）は予想が介在する用例を提示し、「逆接・対比」の表現として位置付けている一方で、予想が介在しないと思われる用例も取り上げ、そちらは「比較・対比」を示す表現として捉えている。すなわち、先行研究においては、「わりに（は）」は、おおむね「反予想」と「比較・対比表現」の二つに大別してきたと見られる。

本稿でも、この大きな二分類を継承しつつ、森山（2018）が指摘する、反予想用法でありながら「比例的関係というような連続性が見えにくい」といった用例の位置づけを含め、改めて「わりに（は）」の用法の全体を体系的に把握することをめざす。

2. 「わりに（は）」の用例分析

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を利用し、949件の「わりに（は）」の用例を収集した。この949件の用例を分析対象とする。

² 益岡・田窪（2024）（第3版）でも、予想される程度が実際に異なるという逆接関係を表す表現とされる。

³ 森山（2018）で提示された「歳をとっている割に、物忘れはひどくない」という例文は、「歳をとっていると、通常であれば物忘れがひどくなる」と考えることができるため、これも「反予想」を表す用法に該当すると考えられる。

2. 1. 反予想

前述したとおり、(1)～(6)の例はいずれも前件から何かが予想され、後件でその予想内容をキャンセルするものであった。予想と現実との食い違いというところから、藤田（2015）における「反予想」という見解を援用し、予想が介在するタイプの「わりに（は）」の用法を「反予想用法」と呼ぶことにする。反予想用法はさらに「比例関係潜在」のタイプと「因果関係⁴潜在」のタイプに分かれると考える。

2. 1. 1. 比例関係潜在タイプ

ここでは、森山（2018）の「比例的なとらえ方」という見解を援用し、背後に比例関係が読み取れる「わりに（は）」を「比例関係潜在タイプ」と呼ぶことにする。比例関係を表す典型的な構文は「～ば～ほど」がある。「歳をとっている割に、物忘れはひどくない」（森山：2018）を裏返して比例関係で言い換えると、「歳をとればとるほど、物忘れはひどくなる」ということになる。このように、「わりに（は）」文を裏返して「～ば～ほど」で言えれば、「比例関係潜在のタイプ」と考える。このタイプの「わりに（は）」文は、前件から一定の予想が導かれるものの、後件では予想外の事態が成立すると解釈できる。したがって、「比例関係潜在タイプ」の「わりに（は）」は反予想用法の一種として位置づけられる。

- (8) a. 長い演説の割には短い通訳になったが、聴衆は私の言うことを漏らすまいと真剣に聞き、うなずく者もいた。

（亀山哲三『戦時下ベトナムに作られた外地校』芙蓉書房出版 1996）

- b. しかも、エアクッションを採用するなど、値段が安いわりに斬新な機能も採用されているんだよ。

（アンドウマサヒロ（著）／実著者不明 s a b r a 2005年9月22日号（第6巻第16号、通巻第135号））

用例（8）は、従属節の内容を直接裏返して比例関係で述べることができる。すなわち、「長い演説であれば長いほど通訳も長くなる」「安ければ安いほど、新機能がついていない」と転換することができる。「演説が長いほど、通訳も長い」はずであるが、そうではない場合は反予想的な意味合いが出てくる。

次の例は、そのまま「～ば～ほど」に言いかえることができない。

- (9) a. 光祖は昭和六年生まれというから五十六歳であろうか。その年齢のわりには顔の艶もよく、まさに太陽を思わせる丸顔で、ふくよかな体型の持ち主である。

（ひろたみを『にっぽん新・新宗教事情』日本文芸社 1988）

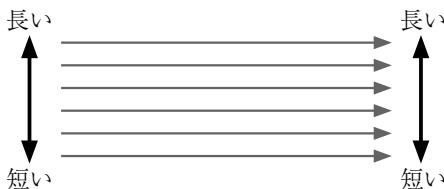
⁴ ある根拠をもとに、結論や推論が導けるなら、そこに「因果関係」があると考える。

b. このユーティカで彼は“カナダのガチョウ”の愛称でだれからも尊敬され、頼りにされている超一流の右腕投手だ。その有名さのわりに決して充分とはいえない給料で、彼はよく投げてくれている。

(ロジャー・カーン (著) / 小林信也 (訳) 『ひと夏の冒険』 東京書籍 1988)

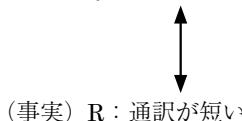
だが、これらの「わりに (は)」の前の文脈、つまり「光祖は昭和六年生まれというから五十六歳であろうか」「超一流の右腕投手」から、「年をとっている」と「有名である」と理解でき、それを踏まえて比例関係を読み取ることができる。一方、用例 (9a) には因果関係が潜在しているという捉え方もできる。というのは、年齢を重ねることが原因となって皮膚の艶がなくなっていくからである。しかし、この場合、因果関係に見えるものは、比例関係にもとづく前提と推論内容の関係にすぎない。振り返って、(8a) について、そのことを図示しよう。前件をPに、推論内容をQに、後件Rとする。

(8a). (演説の長さ) (通訳の長さ)



この比例関係に基づいて、(8a) はまた

(前提条件) P : 長い演説 → (推論) Q : 通訳も長い。



のように、前提（前件）から導かれる推論の帰結に反する事実（後件）として捉えられる。

2. 1. 2. 因果関係潜在タイプ

奥津 (1980) は「(食べレバ) 食ベル ホド フトル」(原因ホド結果) という例を提示し、「A ばB ほど」には「原因+ホド+結果」という因果関係があると述べている (奥津1980: 162)。本稿では、この見方を、「あのシェフは、イタリアで修行した 割には・にしては、味付けが下手だ」のような、森田 (2018) が「比例的関係というような連続性が見えにくい」例に適用することができることを主張する。すなわち、この例には「イタリアで修行したから、味づけは下手なわけがない」のような推論が介在し、「味付けが下手なわけがない」はずだが、実際は「味付けが下手だ」という反予想の意味を表している。先行研究ではあまり指摘されていないが、「わりに (は)」には、

このような用例が数多く見られる。

- (10) a. 水死体のわりには綺麗な死体だったな。

(村上春樹 『中国行きのスロウ・ボート』 中央公論社 1986)

- b. イギリスの国土は、日本同様に四界海に囲まれているわりに、イギリス人たちは、そのご先祖様が暮らしたユーラシア大陸の東のほうの森林生活がいまだ忘れられないのか、日本人ほどには魚を食べない。

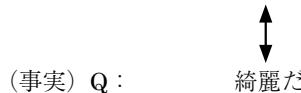
(西岡秀雄 『味でさぐる世界の文化 ヨーロッパ・中近東』 くもん出版 1990)

- c. 同ケーブルテレビ局の谷村勝弘・チーフプロデューサーは「学生が制作したわりには、極めてレベルが高く、内容が爆笑ものから、シリアルスなものまである。局員は日常業務に追われていて、こういう感性の必要な作品は作りたくても作れない。素直な驚きを覚えた」と、放送に使用した理由について説明している。

(松野良一 『市民メディア論 デジタル時代のパラダイムシフト』 ナカニシヤ出版 2005)

用例(10)の背後に比例関係を読み取るのは無理があると思われる。例えば(10a)を「水死体であればあるほど綺麗じゃなくなる」のように裏返して言うと、違和感がある。しかし、このような用例を因果関係にもとづく推論が介在していると捉えると、問題がなくなる。その推論過程を図式にすると、

(前提条件) P: 水死体 → (推論) R: 怖い・綺麗ではない等



のようになる。

2. 2. 対比

前述したように、藤田(2015)は「鼻が大きいわりには、目は随分と細い」という例を提示して、この場合の「わりに（は）」は「ある事物・人等の対照される二つのあり様について」バランスが悪いことを表していると述べている。その後、田中(2021)にも「わりに（は）」を「比較・対比表現」に位置づける見解が見られる。例(65)を振り返ってみる。

- (65) 背の低いわりには、ひどく老けた顔をしている、寸づまりのその顔は異様にみえた。

(越前竹人形)

(田中2021: 272)

田中が提示した(65)の例は藤田が「バランスが悪いことを表す例」に対応すると考えられる。「背の低い」ことから「老けた顔をしていない」ことを予想することはできない。このように、予想が

介在しない「わりに（は）」文の用法を以下、「対比」用法と呼ぶことにする。以下では、この用法の用例を分析する。

- (11) a. 私は元来、好奇心が強いわりには猜疑心の塊なので、日本に帰ってからちゃんとした本を読むことにしました。

(加治将一 『石の扉 フリーメーソンで読み解く歴史』 新潮社 2004)

- b. あと、若い女性の記者は非常にプライドが高い割に、トンチンカンなことを言う人が多かったですね。

(ベンジャミン・フルフォード 『日本マスコミ「臆病」の構造 なぜ真実が書けないのか』 宝島社 2005)

- c. 背が高いわりに顔が丸いから、体全体のイメージがシャモジのようで、その長い体をくの字に曲げてひよいひよいと歩いていく。

(水木楊 『ジールズ国脱出記』 新潮社 1990)

- d. いかにも鈍感そうな間抜けた顔立ちのわりに、その目には、態度に似合わぬ理知的な輝きがあった。

(アガサ・クリスティー (著) / 田中一江 (訳) 『ヘラクレスの冒険』 早川書房 2004)

- e. 銃所特派の人たちは憲法修正第二条を強く訴えている割には憲法修正第一条(言論の自由)をあまり尊重していないのではないか、と私は取材の間、何度も思った。

(矢部武 『アメリカよ、銃を捨てられるか 自由と正義の国の悲劇と狂気』 広済堂出版 1994)

- f. 彼の部屋はがんじょうに作られているわりに、小ぎれいな客間であった。

(ジェームズ・クラベル (著) / 宮川一郎 (訳) 『将军』 下巻 ティビース・プリタニカ 1980)

- g. 登場してから格好つけてる割には、よじ登ってる姿は少々格好悪い (yahoo ブログ 2008)

h. 女は男が幸福でなければ幸福になり得ないし、また男も女に対してそうあって欲しいと女である私は願っている。ほんとうにそうあってほしいと願うが、現実はそうではない。男優位の考え方方がまだまだ根強く、女が男に対して心を碎くわりには、男は女に心を碎いていいるとは言い難い。 (木下明美 『女の言葉が男を変える』 講談社 1993)

用例 (11a) ~ (11h) の背後には「比例関係」や「因果関係」が存在していない。例えば、一般的に考えれば、(11a) と (11b) から

(11)'a. ??好奇心が強ければ強いほど、猜疑心が弱くなる。

??好奇心が強いから、猜疑心が弱い。

(11)'b. ??プライドが高ければ高いほど、トンチンカンなことを言わない。

??プライドが高いから、トンチンカンなことを言わない。

のように比例関係や因果関係は抽出できない。すなわち、(11a) と (11b) では「好奇心が強い」、「プライドが高い」という事実から、「猜疑心が弱いはずだ」「トンチンカンなことを言わないはずだ」という予想は導出できないため、反予想用法としては解釈できない。(11h)までの用例はすべて同様である。

(11g)までの例は、同一主体の異なる二面性を対比する用法であると言えよう。また、こうした対比は、藤田が述べるような「はっきり目につく」こと（例えば (11c) の「背が高い・顔が丸い」、(11d) の「間抜けた顔立ち・知的」な目、(11e) の「憲法修正第二条を強く訴えている・憲法修正第一条（言論の自由）をあまり尊重していない」など）に限らず、内面的なことの対比の場合も（例えば (11a) の「好奇心が強い・猜疑心」が強い）、内面的なことと外面的なこととの対比の場合もある（例えば、(11b) の「プライドが高い・トンチンカンなことを言う」）。また、対比用法には、(11h) のように、異なる主体（「女」と「男」）の間の対比を表す用法もある。

用例を調査したところ、949件の用例のうち、反予想用法の例が800件以上あるのに対して、対比用法の例は50件ほどであって、ほぼ16:1の割合である。すなわち、現代日本語では反予想用法のほうが中心的である。

3. おわりに

本稿では、「わりに（は）」の用法を反予想と対比に分類した。さらにその下位分類として、反予想用法を「比例関係潜在型」と「因果関係潜在型」に分けた。また、使用頻度からして、反予想用法が中心的であることが確認された。

予想と現実の不一致を表す表現としては、他に「のに」が挙げられる。たとえば、(9a) 「私は元来、好奇心が強いわりには猜疑心の塊」のような対比用法の例は、「私は元来、好奇心が強いのに猜疑心の塊である」のように「のに」に言い換えることはできないが、(8b) 「値段が安いわりに斬新な機能も採用されているんだよ。」のような反予想用法の「わりに（は）」は、「値段が安いのに斬新な機能も採用されているんだよ。」のように「のに」に言い換えることが可能である。また、逆の言い換えはできない場合が多く、たとえば、「雨が降っているのに、彼は傘を差していない」を「雨が降っているわりに、彼は傘を差していない」と言い換えることはできない。したがって、単に反予想を表すと言うだけでは、「のに」との違いを説明できない。この問題の検討は、今後の課題としたい。

＜参考文献＞

奥津敬一郎 (1980) 「「ホド」——程度の形式副詞」『日本語教育』41, pp.149–168

田中寛『複合辞からみた日本語文法の研究』pp.218-219, (ひつじ書房、2010)

田中寛『日本語複文構文の機能論的研究』pp.271-272, (ひつじ書房、2021)

藤田保幸「複合辞「わりに」について」國文學論叢60, pp.44-61, (龍谷大學國文學會、2015)
益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法』(くろしお出版、2024)
森山卓郎「比例関係を表す形式語の表現」—「につれて」「ほど」「だけ」「すればするほど」など
をめぐって— 藤田保幸・山崎誠(編)『形式語研究の現在』pp.175–198, (和泉書院、2018)

<参考辞書>

グループ・ジャマシイ『日本語文型辞典』(改訂版) (くろしお出版、2023)

森田良行『基礎日本語辞典』(角川書店、1989)

<調査資料>

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(バージョン 2021.03, 中納言バージョン2.7.
2) <https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/> (2024年4月14日確認)

